

三浦綾子対話集（全4巻）愛と祈り2

（1999.1/25 発行 旬報社）

黒柳 朝（くろやなぎ ちょう）

1910年、北海道滝川市生まれ。黒柳徹子ら五人の母。主な著書「チョッちゃんが行くわよ」「チョッちゃんだってやるわ」「チョッちゃんの私は心の花咲かバアバ」「チョッちゃん物語」「花があったらいつも倅せだった」など。

三浦綾子「祈りはその状況を変えなくても、その人間を変える」という言葉、好き
今日を生きたことがあるという人は、一人もいない

「今日という日にはだれもが素人だ」

今日を新鮮に、今日を大切に、今日を真剣に

山田洋次との対話の中で

三浦綾子

「人は許されるから、こうやって生きていると思う。許して下さい、と言われないと、人は許すことができない。

神様だって、許して下さい、と言わない人は許すことが出来ない。お前の罪を許してやる、と言っても、私には罪なんかありません、許してもらおう筋合いはありません、という気持ちでは許しにはならない。罪を認めて、謝らなければいけない」

「知り合いの牧師が息子に、どうして学校へ行くのか聞いた」

「そうしたら、いい大学へ行って、いい会社に入りたい。それからエリートコースに乗って出世したいと答えた。」

「それでどうなるんだ、と聞いたら、定年で終わりと言う」

「お前の人生の幸せはそんなもんか、とがっかりしたという」

ひろさちや（本名：増原良彦）

1936年、大阪市生まれ、60年、東京大学文学部インド哲学科卒業。65年、同大学院博士課程を修了。気象大学校講師となり、20年間教壇に立つ。仏教を中心に宗教をわかりやすく説き、多くの人々の支持を得る。「まんだらの会」会長として、宗教思想の研究、講演などに活躍。著書に「日本仏教を読む」ほか多数。

対談シリーズに「生命との対話」シリーズ全五冊がある。

三浦綾子

「私たちは、なぜ生きねばならないか...という問いを発しがちですが、生きるとか死ぬとかという人生の一大事の「なぜ」は、誰にも分からない。それよりも私たちは、誰も「生きる」のではなく「生かされている」と考えると、おのずから生き方も変わってくる。」

ある牧師の言葉「結婚したからといって、その日から二人は完全な夫婦になったのではない。夫婦になるためには毎日努力して、一生かかって夫婦になるのです。」

三浦光世の母はとても信仰の篤い人だった。

光世が急性肺炎という大病に冒されて死にそうになった時、私が「お母さん、お祈りしてください」と頼んだら、お祈りしてくださった。お祈りが終わったとたん、私が「ねえお母さん、光世さんは治るんでしょうか」と言ったら、キツとした表情をして「あなたは、それでもクリスチャンですか。今、祈ったばかりで何ですか」と叱られた」という。

祈りながらも信じていないクリスチャン。人間同士も同じ。これではダメ

ひろさちや「宗教の本質という、いい人間になることではない。いい人間にはなれない」
三浦綾子「なれないことの発見でしょうね」

ひろさちや

「お願いごとのお祈り「請求書的祈り」 よくない」

「ただ「ありがとうございます」と感謝する「領収証的祈り」が本物の祈り」

ひろさちや

「神様も仏様も、どちらもデタラメ」

「でたらめ」というのは、「サイコロの出た目しだい」の意味（国語辞典）

偶然 ということ

不幸に逢った人に対して、でたらめなんだよ、これは偶然なんだと力説した方がいい

ひろさちや

「宗教の本質というの、二つあると思う。一つは、私たちがすべて偶然であると知ること。もう一つは、人間が努力しても分からないことがいっぱいあるのだから、あとは全部神仏にお任せしてしまえばいい、ということ。宗教の本質というのはこの二つに行き着くのではないか。」

三浦綾子

「私は、菊田医師（菊田 昇。宮城県石巻市の産婦人科医。墮胎の相談に来た人に産むことをすすめ、その子を子供の欲しい人に世話をし、医師法違反に問われた）を人間として尊敬している。菊田医師は、みずからの行為が法律に触れるかどうかより、人間の生命が守られることを優先された。法律の絶対化より人間の生命の絶対化をされたのです。そもそも小さい命を奪うことが、悪いことなんだと分からなければ、本当の意味で人間の命を尊重するということも分からない。」

三浦綾子「選びの予定説 光世は「予定は決定にあらず」と言う」

すべての人が全部神様の予定の中にあるのだとしたら、いろいろなことで予定の変更がある。決定ではない、というところにまだ望みがある。

ひろさちや

イスラム教には、イスラムの神学者たちが解けない一番難しい神学の問題がある

「ある三人の兄弟が死んだ。長男は長生きして天国の一番上へ行った。次男は幼くして死んだが、一番下の天国に行くことができた。三男は長生きして地獄に落ちた。そこで次男

が神様にくってかかって、「私も長生きさせていただけたら善行を積んで、きっと長男のように天国の最上界へ行けたのに、なぜ私を若死にさせたんだ」と言った。神様は「お前を長生きさせると、きっと悪いことをして地獄に落ちるようになるから、若死にさせてやったんだ」と言われた。そうしたら三男がくってかかって、「神様、それだったらどうして私を長生きさせて地獄に落としたんだ」と言う。難しい問題です」

ひろさちや

「隣の家の芝生は青い」

他人の生き方ばかり見て、不満を持っているのは、やはりおかしい。

子供は誰も他のお母さんと自分のお母さんを比較しない。

「幼な子のごとくあれ」というのは、自分の母親だけを信じて生きている、その姿。

ひろさちや

子供が小さいとき、ショートケーキをもらって帰って来た。妻は娘と弟に「二人で分けて食べなさい」と教えた。食べ終わったあとで、「今、お母さんは、ケーキを二人で食べるように言ったけど、どうしてだか分かるか」と聞いた。

娘「弟がかわいそうだから」と答えた。弟は「今度ボクがもらった時、お返しができるようにお姉ちゃんがくれたんだ」と答えた。

私はまず娘に「相手がかわいそうだから分けてあげる、という気持ちであげてほしくない。それでは相手が憎たらしいと思っているときは、分けてあげられなくなる。それは非常に傲慢な態度だ」。弟の方には「ギブ・アンド・テイクは決して布施ではない」と言い、「一つのケーキを二人で分けて食べる方がおいしいと思える子供になってほしい」と教えた。

ひろさちや

「ここに大きな池があって、池の中にあなたの女房とお母さんが同時に溺れている。どちらから先に助けるべきか」。これは、ある禅僧が出した問題。

大学の宗教学や倫理学の先生方にそういう出題をしたら、いろいろ意見が出てきた。儒教の教えによると、親孝行が優先されるから、お母さんから先に助けるべきだという意見が出る。そんなことはない。キリスト教では夫婦が発発点なんだから、妻から助けるべきだ。カンカンガクガクの議論。

出題した禅僧が「おまえら、早う決めんか。そうでないと両方とも溺れて死んでしまうじゃないか」と言ったんです。

大学の先生方は「いやあ、これは分からない。お坊さんはどちらからお助けになりますか」と聞き直した。禅僧は「わしか、わしは近い方から助ける」。

ひろさちや

インド人は「ありがとう」という言葉を言うと怒る。

インド人は「ありがとう」ということを言わない。「私とあなたは友達じゃないか。友達だからこれは当然のことだ。それを「ありがとう」とは、水くさいじゃないか」と言う。

アメリカ人などは、すぐ「サンキュー、サンキュー」と言うが、彼らは水くさいと言って怒る。

ひろさちや

「恩」という漢字 因の心と書く、いろんな原因、因を知る心

親から受けた愛情、面倒を見てくれたことを知る。今自分がここにいる原因を知る 親の恩を知る心

京都に浄土宗の総本山になっている「知恩院」というお寺がある
恩の原型は知恩 恩返しではなくて、知恩こそ本当

人間は返恩を期待する 恩返しを期待する
牧師に「贈り物」
牧師はいただいた方に「どうもありがとう」と言わずに、「神様のおかげです」の神に感謝。「あの牧師は、いつ何を差し上げても神様だけにしかお礼を言わない」。
人間というのは、自分に返して欲しいんですね。

前川 正「人間は手がなくても、足がなくても、人間であることには変わりはない。だけど、もし、五体が満身に備わっていても、美しいものを美しいと思う心が失われ、人の痛みを痛む心を失ったら、それは人間ではない。」

アブラハム・リンカーンの言葉

「神様はきっと普通の人が好きなんだろう。さもなければ、こんなに沢山の普通の人間をおつくりにはならなかつたらうから」。

良寛の漢詩 不可思議の世界

花は無心に蝶を招き
蝶は無心に花を尋ぬ
花開くとき蝶来たり
蝶来るとき花開く

(花は無心に蝶を招いている、何の報酬も求めていない。そして蝶は無心に花を尋ねている。そして花と蝶の間には何の打ち合わせもないけれど、花開くとき蝶来たり、蝶来たる時花開く。)

北原白秋(1885 - 1942。詩人・歌人。作品に「邪宗門」「思い出」など)

「薔薇ノ木ニ 薔薇ノ花サク ナニゴトノ不思議ナケレド」
「不思議なれれど」 まさにそれが不思議であるということ

ひろさちや

「とうといという漢字には、「貴」と「尊」があります。「貴」のほうは、あれとこれと比較して、こちらの方が貴いという時に使う言葉です。貴金属というのは、鉄や銅よりも貴いという訳ですね。しかし、「尊」の方は絶対的な尊さです。人間の尊さは、私はこの意味での「尊」でなければならないと思う。」

個人の生命の本質的な尊厳を見直すためにも、個人を超えた生命の存在があるということをお教えなくてはならないと思う。